

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 7 年 9 月定例会	
議案番号 議案名	認定第 1 号 令和 6 年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について
議員名・会派名等	松戸志政会
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	認定第 1 号、令和 6 年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について、会派を代表して、委員長報告に賛成の立場で討論いたします。 9 月議会に先立って開かれた全員協議会で示された本市の財政状況は、大変厳しいものでした。前任市長が、在任中にこのような現状を市民に示さないまま退任されたことには大いに疑問を抱きますが、ともあれ、財政再建に向けた一步を、今、踏み出さなければなりません。また、我々議会としても、チェック機関としての責務を果たしきれなかったことについては、反省すべき部分もあると感じております。本決算審査を再建へのスタートとすべく、会派で議論を重ね、抽出された意見を集約して決算審査に臨みました。 我が会派が今回の決算審査で据えたテーマは、一貫して財政再建に向かう視点です。「事業そのものの要・不要」であり、また「必要な事業であっても削減できるコストはないか、かつ、より効率化できないか」といったものです。数多くの事業の中には、我が会派の議員が評価するものもあります。しかし、それが会派内の他の議員にとって疑問のある事業であれば、事業の見直しやコスト削減を議論することを優先しました。いわば、聖域を作らず、財政立て直しを最優先した姿勢で決算に臨んだことを市当局に訴えつつ、決算審査に当たった次第です。 もう一つ留意したことは、やはり、新市長が誕生されたことです。我が会派からの質疑を通して、現在の市政が抱える課題や問題を、細部にわたって新市長に具体的にご理解いただけるよう努めました。差し出がましい物言いですが、就任直後からさまざまな情報を公開される積極的な姿勢へのエールとお捉え下されば幸いです。 改革を見据えた姿勢で臨んだため、時に厳しい評価になったことをご理解いただき、以下、取り上げたテーマの一部ですが、賛

成の理由と指摘事項を述べてまいります。

まず、総務費についてです。

シティプロモーション推進事業は、訴えかけようとする本市の魅力の定義づけが甘く、どこに訴求し、どういった成果を求めるのか、その目的も曖昧です。仮に本事業を継続なさいたいならば、本来もたらしべき事業成果がきちんと目的化されていない点を反省し、具体的な目標設定をしたうえで事業を再構築することを求めます。

「いじめ相談事業」でのLINE相談については、実績が実人数で87件とのことでした。いじめは決して容認できるものではないことから、事業の必要性は理解いたします。しかし、国の補助があるとはいえ、一件あたりのコストは40万円ほどです。教育委員会や学校に加え、市長部局からのアプローチという意義を理解しつつも、効果への疑問は拭えません。今年度までのモデル事業ですので、検証をしっかりと行っていただくよう要望いたします。

つづいて民生費です。

「オンライン相談」では、いじめ相談や子育てコーディネーター相談、ヤングケアラー、児童虐待等早期発見などの家庭児童相談関係業務、自殺対策事業などが該当します。相談内容が多岐に渡っているとはいえ、相談窓口が多過ぎるのではないかと指摘しました。市民の不安解消などそれぞれの業務の意義は理解しますが、財政負担の軽減や業務の効率化を目的に、各種相談業務を整理してまとめることはできないものか、検討を要望いたします。

次に「多世代まるごと居場所づくり業務」についてです。「まっどDEつながるステーション」の賑わいと職員の努力は受け止めるものの、子どもの貧困対策としてスタートした「こども食堂」なども、多様な地域の方が集まる居場所としての位置づけとして定着しつつあります。本市でも補助金をつけている点からも、この重層的支援体制整備事業の個々の事業が、既存の支援やサービスとの重複や類似しているものがあるのではと指摘しました。財政負担の軽減や業務の効率化を考えたとき、同事業全体を捉えなおす時期にきていると考え、見直しを要望します。

衛生費に移ります。

「歯科診療業務」にかかる決算額をどう理解したらよいか、とても悩みました。祝祭日や夜間に診療する歯科医院は増大しており、急な対応への供給は高まっています。いわゆる盆・暮れに受診できる安心感があることは理解しますが、かつてと同じ水準で予算化が続くことには疑問が生じ、見直しを要望します。

「予防接種事業」全般についても、判断が難しいものでした。国の衛生基準などに従って予防接種を行う必要性を排除する意図ではありません。しかし、ワクチンの価格高騰などもあり、多種にわたる予防接種の現状が続くことの財政負担の大きさは、とても気になります。負担割合の見直しなどを研究していただけるようお願いします。

続いて、農林水産費です。

「産地育成強化支援業務」における「松戸えだまめ学校給食」の実績と成果を伺いました。子どもたちにも大変人気のある事業と聞き及んでいます。今年度から給食食材として活用される「矢切ねぎ」とともに、地場野菜の購入促進や食育、郷土愛の育成など、付加価値にも期待いたします。

次に、商工費です。

「ビジサポ運営業務委託料」については、やはりビジマドの業務理念が理解できず、行政の取り組みとしての必要性を感じません。ビジマドの認知度を上げ、利用機会につなげるために金融機関へのPRを始めたそうですが、そもそも設備投資のための融資につながる相談件数が激減したことで地方金融機関が衰退したことを考えると、打開策としてはちぐはぐで、効果につながるとは思えません。また、本市が補助金を支出している商工会議所の持つ機能とのすみ分けも不明確です。こういった理由から、ビジマドを行政の守備範囲とするには疑問が残りますが、どうしても継続されるならば、今後は明快な成果を、具体的な指標でお示しいただけるよう要望します。

「インバウンド観光促進事業業務委託料」の実績と成果について伺うと、令和5年度、6年度の実績を踏まえ、事業を一旦立ち止まって戦略の練り直しを図っている状況とのことでした。一度始めたものはなかなか止めにくいと思います。そうした意味から、自ら効果検証を行っている現状については評価し、検証から導き出される今後に期待します。

続いて、土木費です。

「矢切の渡し公園花壇管理委託料」は、地元小学生など地域の方々を巻き込んでチューリップの花壇づくりを行い、費用の削減にもつながったことを評価するとともに、今後の同公園の賑わいに期待します。

「結婚新生活住宅支援業務」では、低所得者を支援する施策か、人口の流入による税収の確保を期待する施策かを質問したところ、少子化対策を主目的としているとのことのお答えでした。それならば、少子化対策としての効果検証とともに、本市の未来に向け

て費用対効果の高い事業なのかを念頭におき、事業継続の検討をお願いいたします。

次に、消防費についてです。

「ちば北西部消防指令センター」におきましては、構成市との費用分担が適正に行われていること確認させていただきました。

また、「119番映像通報システム」では、早期の災害現場特定に効果を発揮し、迅速な救助活動につながったとのこと。ドローンの運用など、時代に対応したさまざまな技術を駆使しながら、命を守る最前線での活躍にさらなる期待をいたします。

歳出の最後として、教育費について、時間の都合上一点のみに触れます。

寄附を受けること自体に議会内に疑問もあった「マイセン磁器保管委託料」ですが、課題は大きいと感じています。実施した特別展は大変盛況であったとのこと。私も伺いましたが、展示会そのものはとてもよい趣向で実施されておられました。しかし、当初は森のホールのカフェ跡地での常設が計画されていましたが、長期間の常設展示で費用対効果が見合うかという議会からの疑問もあり、見直しが余儀なくされた経緯を市当局はお忘れではないでしょう。多額の開催費用をかけての特別展が盛況であったことだけでは、寄贈を受けたことの正当性を示すものにはなり得ません。取得したマイセン磁器の数々が、市民の財産として有効に活用されるよう、より方策を練っていただくことを要望します。

続いて、歳入について触れていきます。

「都市計画税」に関して、千葉市をはじめ、近隣では柏市、船橋市、市川市、流山市、鎌ヶ谷市、我孫子市では制限税率の0.3%であること、また、本市の税率0.23%が40年以上に渡って据え置かれている現状を確認しました。仮に本市の税率が0.3%に引き上げられた場合、年間約13億円の税収増が見込まれるとのことからも、税率の引き上げを検討する時期にきていると認識いたします。

また、厳しい財政事情の中で大型事業を控えていることを踏まえ、「使用料及び手数料」に関連して総括的な質問をいたしました。経常収支比率の引き下げを見据える中で、令和6年度決算をどのように総括するか、また、受益者負担の見直しなども検討せざるを得ないのではないかという視点での質疑を行った次第です。この問いかけに対して、財務部長からのご答弁は、責任感がにじむ、大変力強いものだったと評価しています。「実質単年度収支黒字化3か年計画」の確実な実行、加えて、かつて実施した行

政リストラから相当の期間が経過し、時代が変化したことに合わせた受益者負担の見直しに言及されたことは、改革の道を引き返せない覚悟を感じます。

ここからは今回の決算審査を振り返った総括的な意見になりますが、左様な財務部長のご答弁には期待する一方で、担当各課の事業見直しへの意識には心もとない面も垣間見えました。歳出の審査の中で、見直しや費用削減、効率的な実施を求めた事業の担当課のご答弁の多くには、現状維持を堅持せんとするかのようなたたずまいが伺えるものの、厳しい本市財政を自覚し、担当事業の見直しを進んで行おうという姿勢が欠けていると感じる部分が多々ありました。冒頭にも申し上げましたが、松戸新市長がご就任された直後に、本市の厳しい状況がいくつも報告されましたことは、再生へのチャンスを得たと前向きにとらえるべきだと考えます。そこに、財務部長をはじめとする当局幹部の方々の意気込みも確認できました。次なるは、実際に事業を担当されている方々に、その思いを浸透させていただき、全庁一体となって本市の改革を確実に推し進めてくださいますよう期待いたします。

財政改革の視点で質疑を行ったため、評価すべき事業、効果を上げている施策について触れられなかったことは誠に恐縮です。それらへの感謝は、我が会派議員それぞれの今後の活動で示してまいりたいと思います。数々の厳しい指摘はしましたが、しかし、前任市長からはこれほどの財政悪化が示されていなかった中での業務執行において、各課で従事される職員の皆さまはご努力を重ね、誠実に業務にあたっておられると認識しております。これからは、従来の真摯な姿勢に加え、コストの合理化や事業のスリム化、より高い効率性といった視点を合わせ持っていただきたいと願います。そして、市議会として本決算を承認することを一つのエールとし、質の高い行政サービスの提供と改革を同時に実現していただくことを支援するためにも、委員長報告への同意に、満場の皆さまのご賛同賜りますようお願いし、討論といたします。